2007.1.1

循環器・呼吸器病センター だより

第３３号

新年明けましておめでとうございます。

昨年４月より病院長職を拝命し、先生方からのご指導、ご鞭撻を賜りながら９か月余りが過ぎました。私は年頭にあたり、“誠意と熱意をもって患者さんに接する”という病院の理念を達成するための小さな努力の積み重ねが、“患者第一”あるいは“身内の者にも勧めることの出来る”医療機関になる源であると職員に伝えたところです。

今後も引き続き、職員一丸となり病院運営に尽力してまいる所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

病院長　　今井　嘉門

I I I ΔNOOOI I I ΔNOOOI I I ΔNOOOI I I ΔNOOOI ΔNOOOI I

“SCU(Stroke Care Unit) 脳卒中集中治療室”について

副病院長　城下　博夫

日本の脳卒中発症者は年間24万人、その死亡率は心筋梗塞の２倍、発症率では３～７倍であり、寝たきりや在宅で介護を要する状態になる人は55%、完全に回復する人はわずか25%と致命率、重症率が高く、日本人の平均寿命と医療が世界的に見て高水準にあるとは言え、更に改善が必要な状況にあります。

ここで、SCU（Stroke Care Unit）とは、脳卒中専門病棟のうち、特に重症患者さんや特殊な治療に対処できるような装備・人員を配置した脳卒中集中治療室のことで、ヨーロッパではそのようなユニットで治療された患者さんの機能的予後が良好であることが実証的研究であきらかになりました。WHO では「すべての急性脳卒中患者は、早期のストロークユニットの専門的評価と治療を受けるべきである。」と指摘し、近年、日本の厚生労働省もその設置を促進しようとしています。

当センターには、平成６年開院時から10床の CCU・SCU 集中治療室をすでに備え、主としてコイルやステントなどの血管内治療や超急性期の血栓溶解療法の症例を SCU で、開頭手術が必要なくも膜下出血（脳動脈瘤）や脳内出血の症例を ICU で治療してきました。更に当センターは、平成16年国立循環器病センターが中心になり行った「我が国における Stroke Unit の有効性に関する多施設共同前向き研究」に参加し、当センターでの一年間の脳卒中急性期症例77例について調査しました。

その結果は、重症例が比較的多いにもかかわらず死亡例が一例（1.9%）と全日本の多施設共同研究（J-MUSIC)が７%弱と比較しても良好な結果となっています。特に脳梗塞の症例では発症してから３時間以内に投与した場合、ときに著効を示す組織プラスミノーゲンアクチベーター（ｔ－ PA)の使用の SCU においてより安全に行われることから、脳血管障害の治療に SCU は大変、重要な位置をしめていると言えましょう。

当センターでは、超急性期の脳血管障害の治療に必要な人員（24時間脳神経外科医の待機）、設備を備えてどのような時間でも対応できるように努力しております。

皆様のご協力をお願いする次第です。

I I I ΔNOOOI I I ΔNOOOI I I ΔNOOOI I I ΔNOOOI ΔNOOOI I

～　ホームページリニューアルのお知らせ　～

現在、当センターホームページのリニューアル作業を行っております。

リニューアルにあたりましては、閲覧される多くの方々、特に患者さんの視点に立ち、わかりやすい内容で掲載するように心掛けてまいりたいと考えています。

既に平成18年12月末から、トップページを含む一部内容につきましてはリニューアルしたところではありますが、全作業が終了するまでには、今しばらくお時間を頂戴しており、大変ご迷惑をお掛けいたしますが、皆様方のご理解を賜りたいと存じます。